

「三重県ひきこもり支援推進計画」(仮称)の基本的な考え方

計画策定の趣旨

- ひきこもりは「誰にでも起こりうるもの」
- いじめ、不登校、障がい、進学や就職の失敗、人間関係の悩み、家庭環境等様々な事情が関係
- 少子高齢化等社会構造の変化、価値観の多様化
→複雑化・複合化、長期化・高年齢化(8050問題等)
- 実態把握が不十分、社会資源の不足
- 新型コロナウイルス感染症の影響→一層深刻化
- 市町「重層的支援体制整備事業」の創設(R3)

ひきこもり支援に係る課題

- 相談支援の充実・強化等
- 相談支援から社会参加等への段階的・継続的支援
- 社会資源の活用と整備、包括的な支援体制づくり
- ひきこもりに関する理解促進
- 多様な担い手の育成・確保
- ひきこもり状態を長期化させないための対応
- 新型コロナウイルス感染症への対応

将来のめざす社会像

誰もが社会から孤立することなく、ありのままの自分が認められ、いつでも小休止でき、多様な生き方を選択し、希望をもって安心して暮らせる社会

基本的な取組の方向性

- 情報発信・普及啓発
- 対象者の早期発見・状況把握
- 家族支援
- 当事者支援
- 社会参加支援
- 多様な担い手の育成・確保

施策展開にあたって重視すべき視点

2つのアプローチが車の両輪

① 「課題解決型」支援

“つながり”を大切にする「伴走型」の継続的な支援

②アウトリーチ(訪問型)支援

③ひきこもり状態を長期化させない

④DXの推進

⑤「専門的支援」と「側面支援」